

世田谷版気候若者会議 第3回

個人・行動と地域・社会の転換

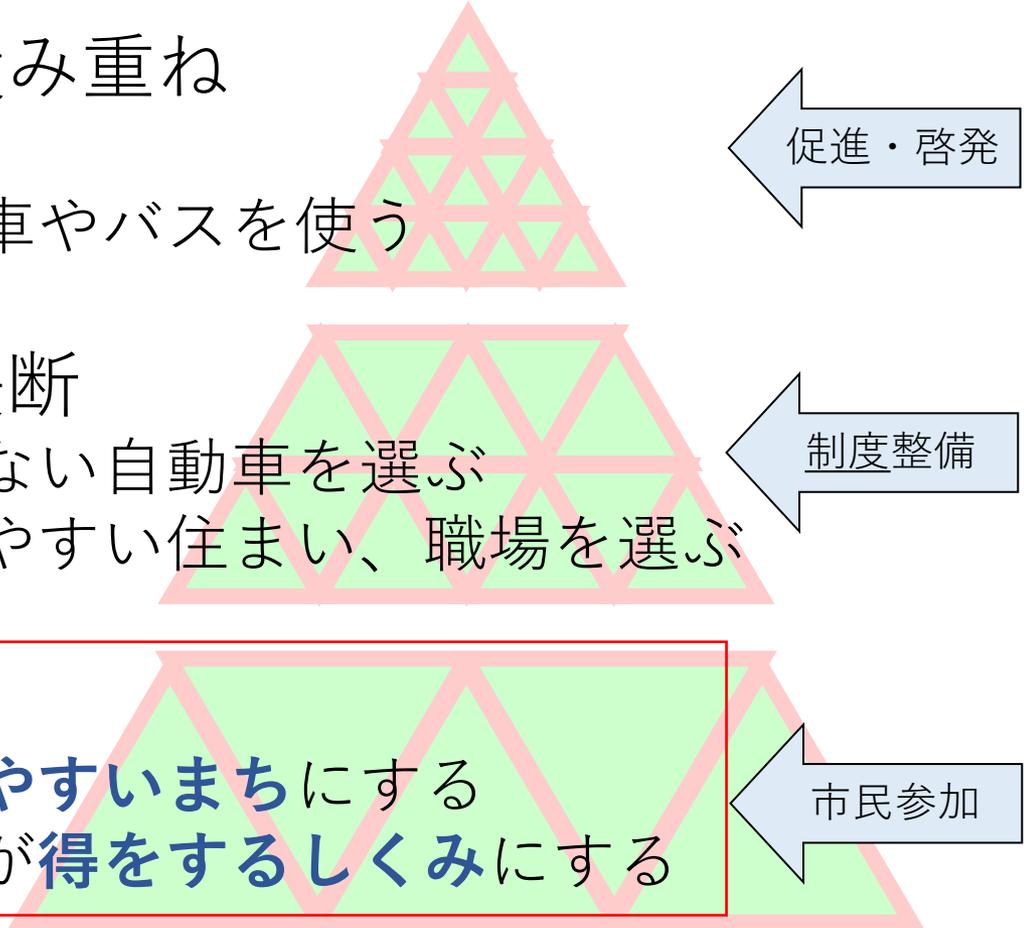
松橋啓介

国立環境研究所（地域計画研究／社会対話・協働推進）室長

筑波大学（社会工学）連携教授

脱炭素に向けて、移動を、どうすれば良いのか？

- 日々の地道な努力の積み重ね
 - エコドライブに努める
 - できるだけ歩くか自転車やバスを使う
- 長い目で見て大きな決断
 - 燃費が良く、大きすぎない自動車を選ぶ
 - 公共交通や徒歩が使いやすい住まい、職場を選ぶ
- 地域社会への働きかけ
 - 公共交通や徒歩が**使いやすいまち**にする
 - 環境負荷の小さい選択が**得をするしくみ**にする

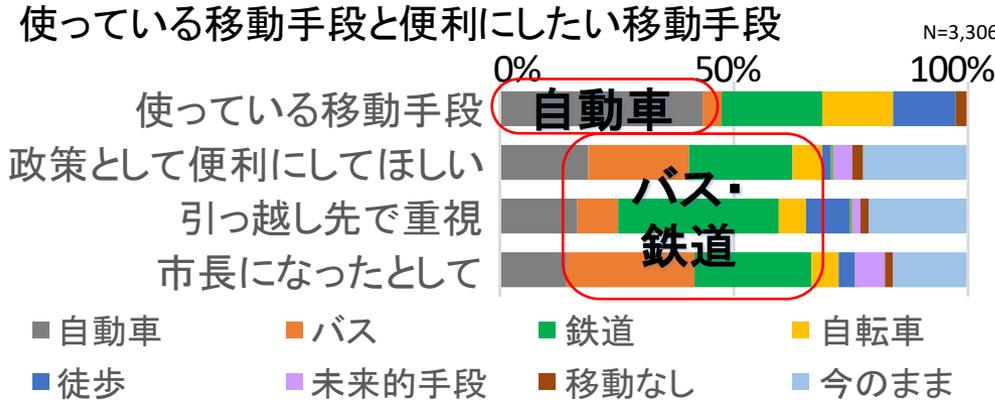


促進・啓発

制度整備

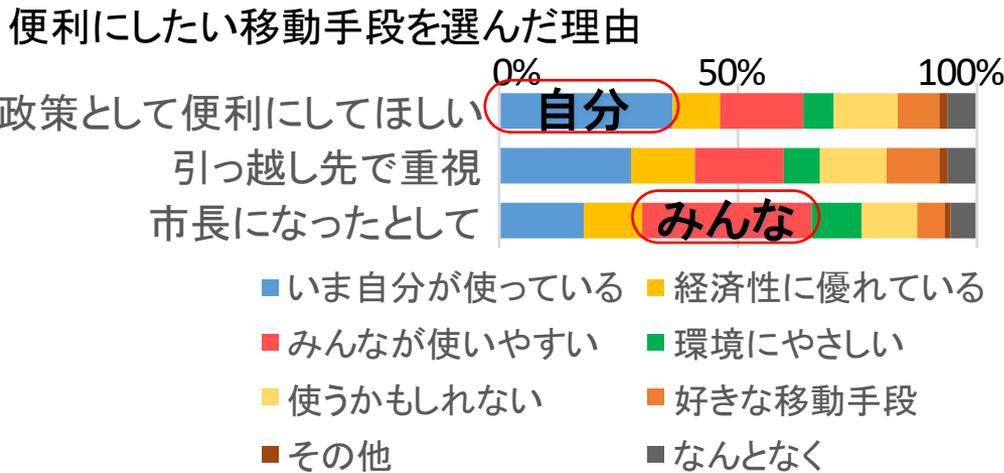
市民参加

どの交通手段を便利にしていくか



いま使っている交通手段を便利にしてほしいとは限らない

- バスを便利にとの声
- 引っ越せるなら鉄道や徒歩
- 市長としてバス・鉄道を便利に



- 「みんなが使いやすい」視点



「ユーザー」としてでなく、「市民（市長）」として、まちの未来を考え、その意志を反映させることが公共的には重要

個人の行動変容と社会の構造転換

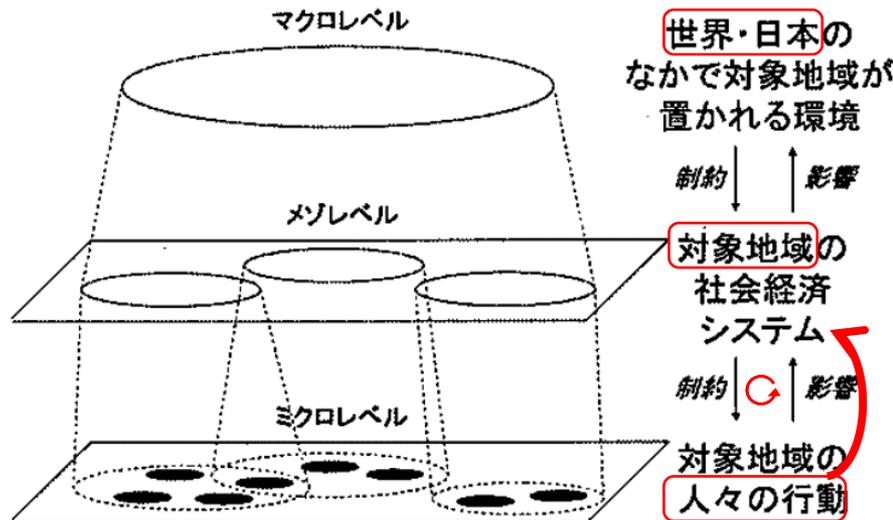


図1 マルチレベル思考

注) Geels, 2002 に加筆

出典：松浦正浩(2017)トランジション・マネジメントによる環境構造転換の考え方と方法論. 環境情報科学, 46-4, 17-22.

- 国や世界は、地域社会を介して、個人の行動に制約を与え／影響される－相互に関係する

市民は、生活者として環境配慮行動をするだけでなく、政策決定主体として社会に働きかけることもできる



「まち／しくみ」の転換
(トランジション)

脱炭素な土地利用と交通手段の組合せ

A. マイカー中心

面的展開型の土地利用



電気自動車、ハイブリッド



B. 公共交通と色々な手段の組合せ

拠点連携型の土地利用



鉄軌道系 + 徒歩 / パーソナルモビリティ



多様な価値をどう捉える？



- さまざまな
立場
着眼点
視野
- ばらばら？
 - × 多数決
 - × 平均値
 - 多面的・立体
 - 全体像
 - 高解像度

さまざまな価値・意見に基づいて、全体像や相互作用を理解した上で、よりよい社会・経済・環境の方向性を探る

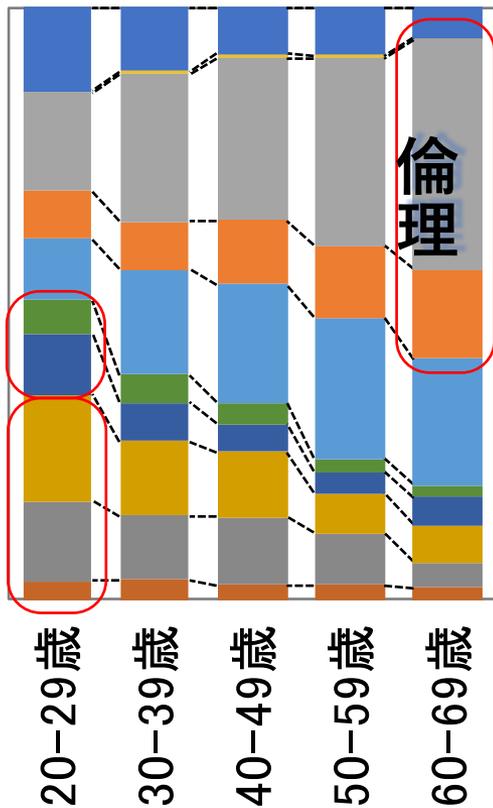
• 集合知

出典：IPBES「自然の多様な価値と価値評価の方法論に関する評価」（下記文献の和訳）の図の一部。

IPBES (2022). Summary for Policymakers of the Methodological Assessment Report on the Diverse Values and Valuation of Nature of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services. Pascual, U., Balvanera, P., Christie, M., Baptiste, B., González-Jiménez, D., Anderson, C.B., Athayde, S., Barton, D.N., Chaplin-Kramer, R., Jacobs, S., Kelemen, E., Kumar, R., Lazos, E., Martin, A., Mwampamba, T.H., Nakangu, B., O'Farrell, P., Raymond, C.M., Subramanian, S.M., Termansen, M., Van Noordwijk, M., and Vatn, A. (eds.). IPBES secretariat, Bonn, Germany. <https://doi.org/10.5281/zenodo.6522392>

価値観の隔たり： 日常選択の道德観と年齢階層

日常生活の行動判断、主にどんな観点から考えますか？

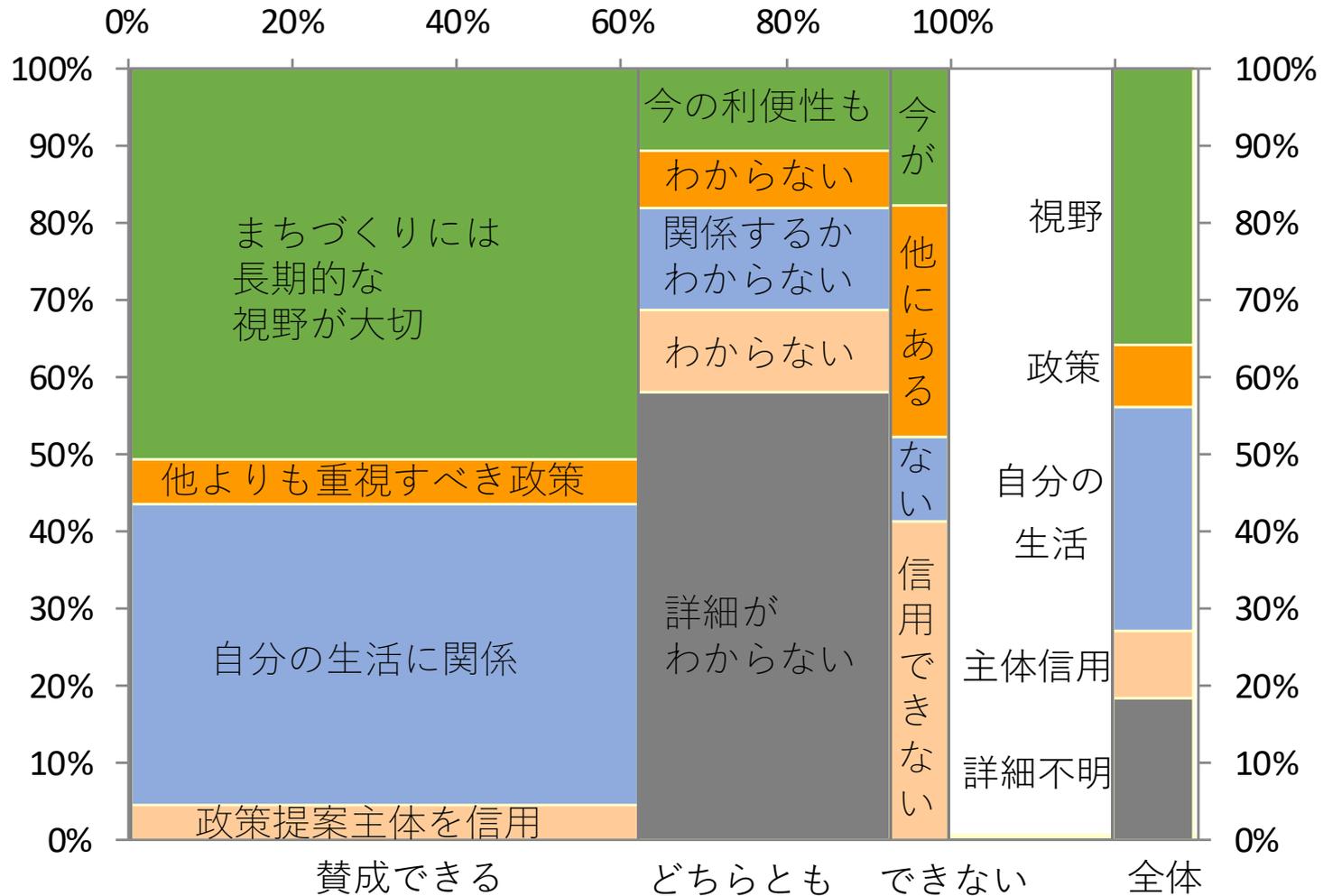


- なんとなく
- 自分の良心に従うこと
- 社会的に公正であること
- 法律やきまりに反しないこと
- 周りの人に良いねと認められること
- 周りの人に褒められること
- 自分の得になること
- 自分の損にならないこと
- 罰せられないこと

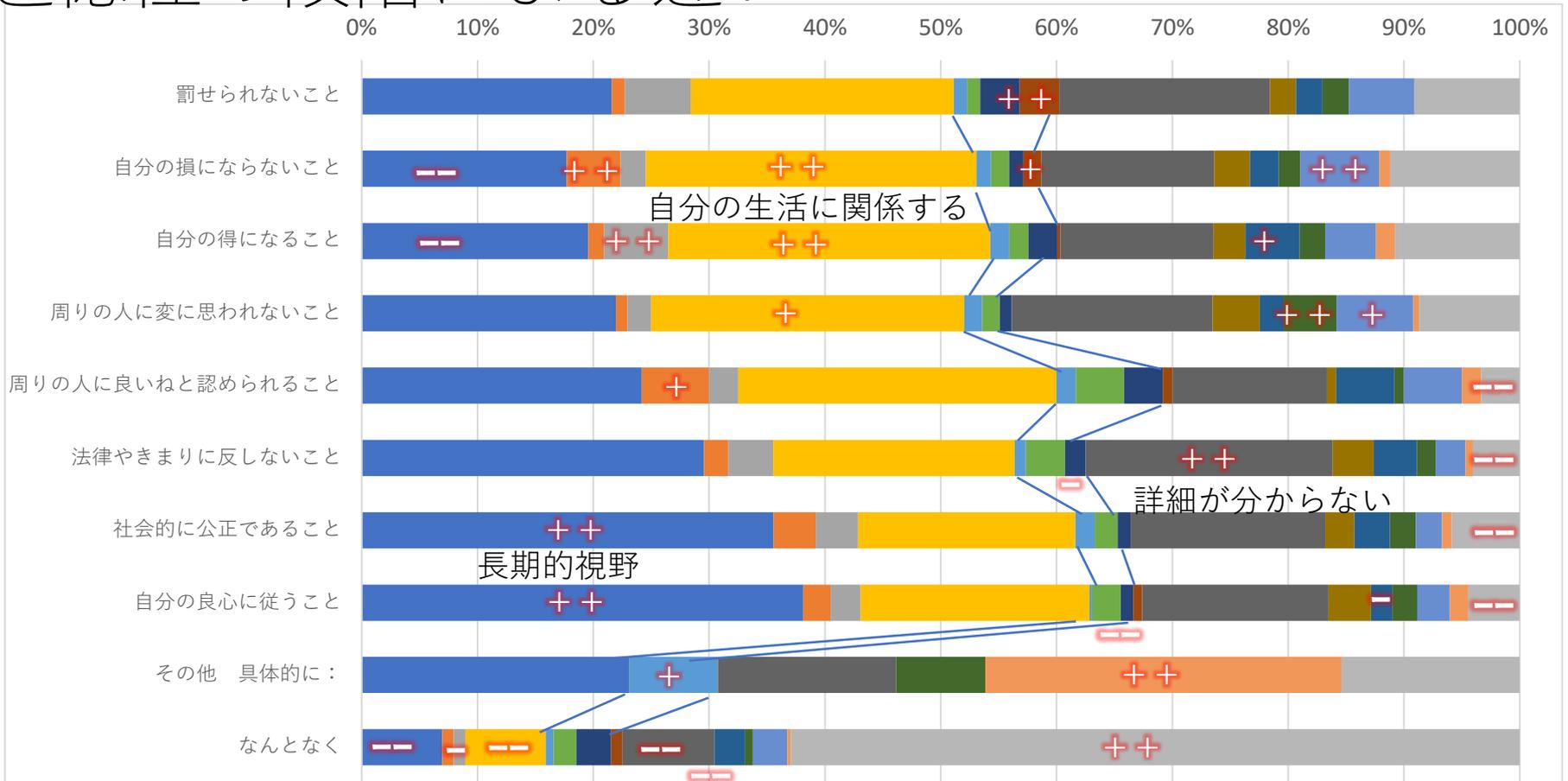
『道德性段階』 (コールバーグ)		
8	脱慣習	倫理的原理
7		社会契約
6	慣習	法と秩序
5		調和、承認
4	前慣習	相互取引
3		
2		
1		罰と服従

- 多様な価値観
- 高齢ほど損得や空気よりも遵法や倫理
- 自身の道德観より下と一段上までは理解しやすい
- 罰則や経済的誘導が社会の効果的なセキュリティとなる

経済的・社会的・環境的な持続可能性（長期的に望ましいこと）にすぐれた移動手段を、他の手段より優遇する政策について、（住民投票で）あなたは支持しますか。



道徳性の段階による違い



- まちづくりには長期的な視野が大切だから
- 他よりも重視すべき政策だから
- 今の利便性の方が大切だから
- 他に重視すべき政策があるから
- 詳細が分からないと判断できないから
- 政策を提案している主体を信用できるか分からないから
- 自分に関係するか分からないから
- なんとなく
- 政策を提案している主体を信用できるから
- 自分の生活に関係するから
- 政策を提案している主体を信用できないから
- 自分には関係ないから
- 長期的な視野と今の利便性と両方大切だから
- 他に重視すべき政策があるか分からないから
- その他 具体的に：

ミニ・パブリックス

- 年齢層等が国や市の**縮図**となるように抽選
 - 第一次抽選：市民の一部に招待状
 - 第二次抽選：参加希望者から参加者を抽出
- 学習（情報提供）と熟議（熟慮）と投票等を経て対策を提言

- 参加者の多様性を確保
 - 広く受け入れられる提言
 - 参加希望者／招待者
2～3%→11%
 - 謝礼額が十分か

気候変動問題への関心



気候市民会議参加者の年齢構成（つくば）

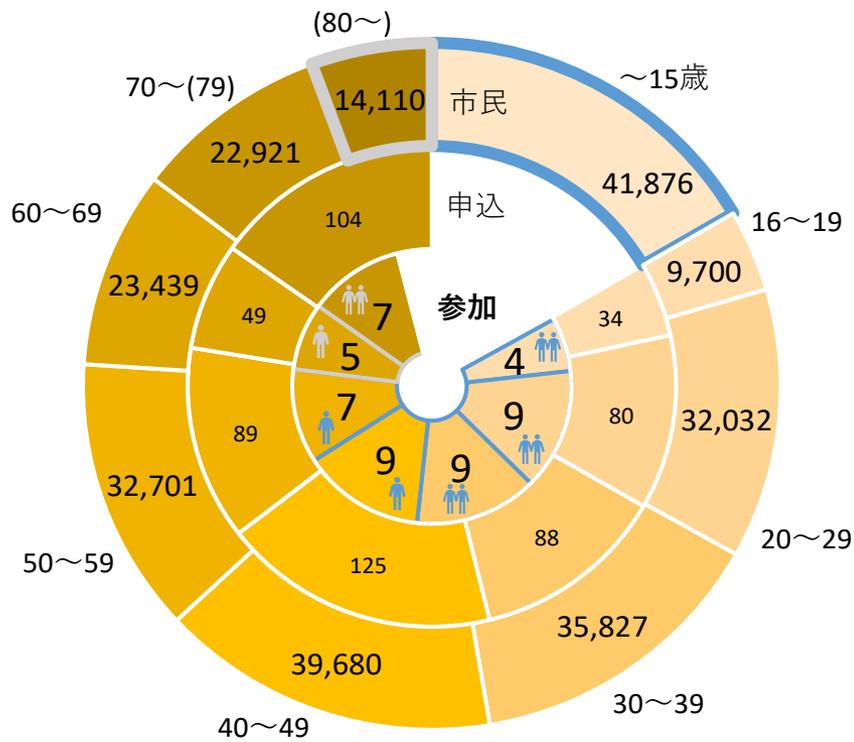


図 市民-申込-参加の年齢構成

- 『縮図』も少子高齢化
- 『下限16歳、上限なし』
- 下限未満の声を誰が代弁？
- 25年後に16~80歳の市民？
- 多数決でなく **多様な視点**
 - 各年齢層をバランス良く

50人を市民の全年齢層の縮図に配分した後、調整↓
 80歳以上3人分→70歳代以上2人+60歳代1人
 16歳未満8人分→10,20,30歳代各2人+40,50歳代各1人

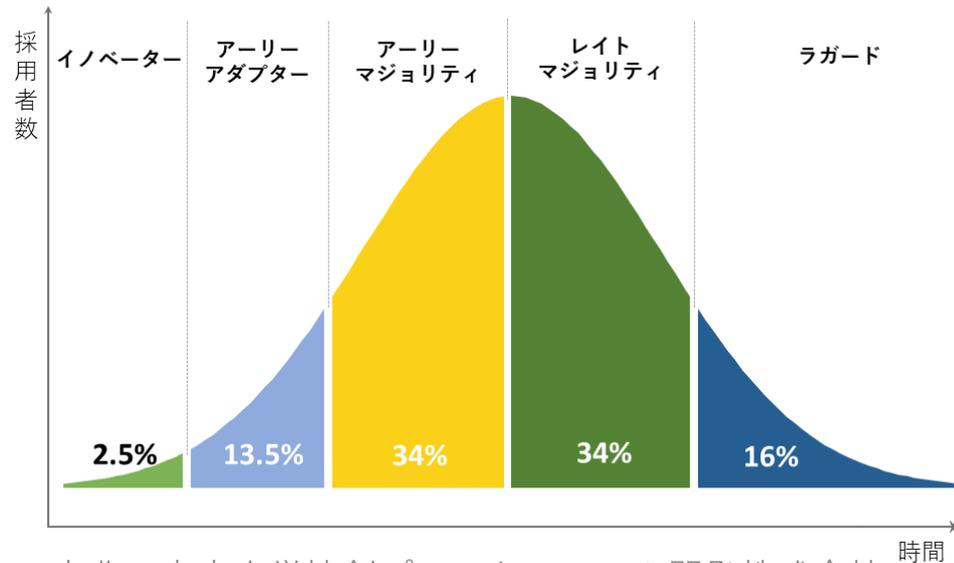
普及・拡大策

- 5割～8割の支持が得られる政策を考える
- **公共善**に沿う行動が「得」になるしくみ
- × 対立(分断) ○ **対話**



出典：世界文化社 2017.3

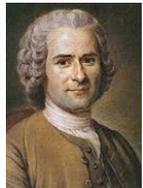
イノベーター理論の5つのタイプ



出典：東京大学協創プラットフォーム開発株式会社

- イノベーター（革新者）
- アーリーアダプター（初期採用者）
- アーリーマジョリティ（前期追随者）
- レイトマジョリティ（後期追随者）
- ラガード（遅滞者）

一般意志（共通善、公共善）



ジャン=ジャック・ルソー

公共の利益を目指す**一般意志**
を法制度の礎とすべき

私的利益を目指す**特殊意志**の
単純な総和は**全体意志**

多種多様な特殊意志を**集計する際に、相互の差異が相殺され**、一般意志となる

	単体	集合
「個人」の判断	特殊意志	全体意志
「社会人」の判断	社会に関する意志	一般意志（普遍意志）

総和 →
 差異 →
 相殺 →
 共通 →
 共感 →

市民↓視点

気候市民会議
将来ビジョン
仮想将来世代
未来市長

熟慮(internal deliberation)と投票

- 直感的な反応でなく、情報を総合して考えて判断する
 - 専門的知見（こうしたらこれだけ減らせそう）
 - 多様な参加者の意見や考え（こうした方がよい）
- 共有されやすいよりよい提案（選択肢）をつくる
 - 共通する（**共感**される）意見をまとめ、反映させていく作業
 - 複数の付箋、「いいね」シール、うなずき
 - 意識的に行わないと、寄せ集めか、分類作業にとどまりがち
- 最後は、投票をすることで個人の判断は**尊重**される
 - 提案（選択肢）への（高度な）合意を必要としない
 - 熟議（徹底討議）を必要としない
 - 熟慮なしの投票とは異なる結果が得られる

「なぜ、気候変動対策は 進まなかったの？」

2015年パリ協定採択前

1. 影響や原因や対策にまだはっきりしていないところがあった
2. 多くの人々に重大な問題だと認識されていなかった
3. 対策で生活が変わることが損になると考える人々の反対が強かった

2015年パリ協定採択後

1. 科学的知見がはっきりしてきた
2. 多くの人々に気候危機が認識された
3. カーボンニュートラルに対応しないと生き残れない（対応した方が得になる）と企業が考えるようになった

企業の対応

- TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）：
気候変動への対応方針を開示することで、
ESG投融資を受けやすくなる

ESG：Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)

- リスク
 - 物理リスク：高温、水害でも事業継続できるか
 - **移行リスク**：脱炭素社会への移行に伴って素材やエネルギー、生産プロセス等を転換できるか
- 機会
 - 事業の転換や改善に取り組む**チャンス**として活用できるか

地域の対応（考えたいこと）

・取り残されない世田谷／日本

- 適応：暑熱、豪雨が増えて住み続けられるか
- 緩和：脱炭素社会への移行に対応して、**個人の生活と地域のまちやしくみを転換できるか**
 - いまは市場がない／価格が高いけど、20～30年後に向けて備えるべきまちやしくみ
 - 転換できないと**2050年生活コスト**が上がる
 - 少子高齢化・人口減少と並ぶ地域課題
- 機会：緩和や適応を通じて、地域の**強み**を発揮できるか

・取り残さない世田谷／日本

- 炭素配当(carbon fee and dividend)：炭素税収を均等に分配することで、高排出者の負担を多くするしくみ

持続可能性と発展の4分野12項目



2011-2015年度の研究成果で作成した持続発展指標と、SDGsやBLIとの関係を整理した。

SDGsの17指標は、環境や規範に詳しく、生活の質や地域コミュニティに関する指標がやや少ない。OECD/BLIの11指標は、生活に詳しく、規範や環境に関する指標が少ない。包括的な指標を考え、地域で重みを付けることが望ましい。